

東日本大震災避難による「子どもの育て難さ」に関する検討

—いわき市と静岡市における保育現場の現状の比較から—

鈴木美枝子
(いわき短期大学)

<要 旨>

現在、いわき市の人口のうち3万人ほどが、東日本大震災による避難者である。保育現場から、「震災後、発達障害の行動特徴を示す子どもが増えてきている、子育てが難しくなった」という訴えを多く聞いた。この訴えに対しての、研究データはない。そこで、いわき市の保育者が訴える「子どもの育て難さ」の現状と要因を把握するために、(1) いわき市の保育者が大震災後、感じる「子どもの育て難さ」とは何か、ベテラン保育士の語りから、その要因を探る。(2) いわき市と静岡市の5, 6歳児対象に、日本版 SRS-2 SRS - 2 (Social Responsiveness Scale - 2) 対人応答尺度幼児版を利用して比較検討して実態を明らかにする、2つの観点から「東日本大震災避難による『子どもの育て難さ』に関する検討することを目的とした。

結果(1)では、震災によって、保育環境の崩壊により、保育者自身の「保育観に喪失」があったことが明らかとなった。「保育観の喪失」から、希望を見出したのは、震災によって制限された環境の中で、一生懸命に生きる子どもの姿であった。震災後の新たな環境の中で試行錯誤しながら行う日々の営みの中で、「保育観」の再構築が行われてきている。現在の「子どもの育て難さ」は、保育者自身の「保育観」の広がりを示唆する重要な事柄が含まれていると推測された。

日本語版 SRS-2 対人応答尺度を用いた調査から、いわき市は「発達障害」の行動特徴を示している子どもが多くいることは確認され、子どもたちの個人内差を検討した結果、本来持っている発達障害の資質よりも、環境的な要因が影響しているのではないかと推測された。

<キーワード>

東日本大震災 保育者の子ども理解 複線経路・等至性モデリング 日本語版 SRS-2 対人応答尺度

【はじめに】

幼児教育科の教員として、いわき市の行政や教育について調べたり、保育現場を訪問したりする中で、現在もいわき市の人口のうち3万人程、震災による避難者であることを知った。また、保育所(園)や幼稚園に学生の実習指導で訪問をした時に、「今年は、震災後6年目にあたる。震災当時、妊娠中の子どもや出産したばかりの子どもが年中、年長児になり、発達障害の行動特徴を示す子どもが増えてきているように思う。その対応に苦慮している。」という内容の訴えを多く聞いた。

本財団の研究助成論文集で、2012年度に徳田らが「福島第一原発事故による放射能汚染

が乳幼児の保育に与えた影響」について茨城県の保育所を中心に調査をして報告をしている(徳田, 2012)。2014年度には、宮城県子ども総合センターの本間らが「東日本大震災による乳幼児の心的外傷及び関連障害の実態について」研究報告を行っている(本間, 2014)。これらの報告から、震災が乳幼児期の子どもに及ぼす影響は明らかにされてきている。しかし、いわき市の保育者が日常の保育の中で感じている「震災後6年目の子どもの現状や保育者の子どもの育て難さ」については、客観的なデータとして明らかにされていない。さらに、保育者が訴える「発達障害の行動特徴を示す子どもが増えている」という現象が、被災地域や被災者を

受け入れているいわき市の地域の問題なのか、全国的な傾向であるのかも明らかにされていない。

【目的】

本研究では、次の2つの観点から「東日本大震災避難による『子どもの育て難さ』に関する検討することを目的とする。

(1) いわき市の保育者が東日本大震災後、感じる「子どもの育て難さ」とは何か、ベテラン保育士の語りから、その要因を探る。

(2) いわき市内の保育者が、日常に保育の中で「震災後、発達障害の特徴を示す子どもが増えている」と訴えていることに対して、いわき市と静岡市それぞれの保育園、幼稚園、認定こども園に在籍する5, 6歳児対象に、日本版SRS-2 (Social Responsiveness Scale - 2) 対人応答尺度幼児版を利用して比較検討を行い、実態を明らかにする。

【倫理的配慮】

研究協力者には、調査の説明を口頭及び書面で行った上で、同意書に署名を得た上で実施した。いわき短期大学倫理委員会の承認も得ている。

【研究1】

1 目的

いわき市の保育者が東日本大震災後感じる「子どもの育て難さ」とは何か、ベテラン保育士の語りから、その要因を探る。

2 方法

調査時期：平成30年1月。

調査対象：公立保育所の保育士(保育歴31年)。

データ収集方法：半構造化面接法を用い、調査対象者の了解を得てICレコーダーに録音した。

半構造化面接の調査内容：最初に、ライフライン・インタビュー・メソッド(Life-line Interview

Method:LIM)を用い、縦軸に保育者として自分が感じる「保育の楽しさ・困難さ」について、横軸を時間の経過を現した座標に記入してもらう。記入された図を視覚的な刺激材料として、以下の質問を中心にインタビューを実施した。「保育者として仕事をしてきて、東日本大震災後、実感としている『子どもを育てる環境の難しさ』は、どのようなところで感じているか。」について①それはいつ頃か、②具体的にどのようなことか、③背景要因として思い当たること、④そのときにどのような対応をしたか。

分析方法：「複線経路・等至性モデルリング(Trajectory Equifinality Modeling ; TEM)」の枠組みで検討を行う。

TEMとは、質的研究法の一つである。TEMは、人生の経路を時間の次元ともう一つの次元(実現したことと実現しなかったことの次元)を用いて描く。その特徴は、物事の構造ではなく、過程を理解しようとするアプローチである(安田, 2015)。

3 結果及び考察

(1) 保育士の語りをTEMで分析

保育士がインタビューで語ったエピソードを逐語録に書き下ろした後、語りを意味のまとまりごとに切片化し、TEMを用いて分析を行った。分析では、TEMの理論を構成する基本的な概念を用いて、31年間の保育士生活のなかで、東日本大震災後の「子どもを育てる環境の難しさ」についての語りについて着目し、検討をした(図1)。

その結果、①東日本大震災により「保育環境」が崩壊したこと(必須通過点)、②震災によって福島原発の事故が発生したことで、保育環境の変化を余儀なくされた(分岐点をもたらす促進記号の発生)。③避難所の保育所で保育を行うが、その時に子どもたちを戸外で活動させるか否かの選択に迫られた(等至点)。その決定は、保護者や同僚の放射線に関する知識(社会的方向づけ)によって選択された。保育士の語

りの時間の流れは、非可逆的時間とし設定した。放射線量の変化によって保育所の場所や保育内容がどう変化するかについて、保育士の心理的な状況を「本人の体験の中でどのように捉えていたか」という視点から推測し記入した。

(2) 保育所生活の変化（分岐点）から子どもの姿を分析

①避難先の保育所（制約された環境）では、子どもたちは、自分の不安な気持ちを内面に秘めじっと我慢していた。大人からみると、お利口さんの子どもたちの姿だった。

②避難していた地域の人たちが戻ってきたので、震災前の保育所が開所されて戻ることになった。しかし、まだ、放射能の数値が高く、保育所では、戸外活動は許可されなかった。そのため、本当は外で遊びたいけれど、そうした気持ちを抑え込み、外に出ることを諦める子どもたちがいた。これまでお利口さんだった子ども達のなかで、発達障害の傾向のある子は、ストレス発散のために攻撃的になり、室内遊びにおいてトラブルを起こすようになった。

この頃は、まだ、全ての保育所が開所されていなかった。そのため、他の保育所から来た子どもたちも一緒に生活をしていた。その子どもたちは、ブロック遊びが得意だった。すると、子どもたちは、他の保育所からきた子どもたちのブロック遊びを真似し始めた。そして、子ども同士がお互いに話しをするようになり、協力し合って、大規模なブロック遊びを展開していった。そんな子どもたちの姿から、保育士は、子どもの発達に無限の可能性を発見した。そうした一方、保育士たちは、子どもたちの生活場が室内のみという制限された環境での生活が長くなってきたので、子どもたちの体力の低下が心配になった。そこで、保育士同士が話し合いを行い、戸外活動ができる許可された時間に、子どもたちと散歩する時間を設けた。しかし、放射線量が多かったため、散歩する道中に

咲く草花や虫などには触ることは禁止されていたので、子どもの手を引いて、ひたすら前を向いて歩いた。その活動について保育士たちは、「気づかせない散歩」と呼んだ。

③戸外活動の制約が解除され、震災前の保育所の日常が戻った。しかし、放射能に対する恐怖については、個々の保育士、保護者の認識に大きな違いがあった。そのため、全ての子どもが戸外遊びに参加できるわけではなかった。子どもたちは、震災後、一つ一つの活動に対して、大人からの指示のもとで生活をしてきたため、保育士や保護者の指示に従うことが習慣化し、自分の思いや感情を表現することは少なくなっていた。

④その後、お話をしてくださった保育士は、他の地域の保育所に転勤になった。この頃には、戸外活動の時間の制限等もなくなり、保育環境は震災前と同じ環境に戻っていた。そこで、子どもたちに「さあ、今日は、泥んこ遊びをやりよう」と、着替えをさせて外に子どもたちを出した。しかし、子どもたちは、一人も用意した泥んこ遊びの場所に行くことなく、立っていた。このような子どもたちの姿が、保育の様々な場面で見られた。改めて、子どもたちの運動や遊びなどの発達が年齢相応ではないことを痛感した。このことは、早朝保育や延長保育の時間などで異年齢集団の活動になったとき、顕著に現れた。これまで見られていた年長児の遊びを年中、年少児の子どもたちが見て真似るという姿が見られなくなったのである。そうした子どもたちの姿をみて、改めて生活する環境が、その後の成長に影響を与えていることを実感した。そして、放射能による生活環境や活動の制限は、大人からの指示によって子どもたちに逐次伝えられ、子どもたちの行動は、大人たちからの指示によってコントロールをされてきた。そのことで、次第に、子どもたちは自分の意思で活動することや、自分の思いや感情を表現することを自身で抑えるようになったと推測する。

これらのことが、子どもたちの精神的な弱さや幼さの要因となっているのではないかと考える。

(3) 保育所生活の変化（分岐点）から保育士の心理的な状況を分析

震災後、保育者の「子どもの育て難さ」について、TEMの理論による分析の視点から、(1)分岐点に着目して保育士の気持ちについて考察すると、①避難先の保育所で、保育に携わっていた頃は、「私は、今まで自然環境を利用して保育をずっとやってきた。それは、私がずっとやりたかったことだった。今回の震災で、その環境が全て奪われてしまった。これまで培ってきた『保育観』が全て否定されてしまった」という挫折感を味わい、今後、どうやって保育をしていったらよいのか皆目見当がつかなかった。でも、避難した目の前の子どもは「お利口さん」で、私たち（保育士たち）を困らせることはなかったのだから、安心した。しかし、一方で、子どもらしさを失った姿に大きな不安感を覚えた。②避難先の保育所から震災前の保育所に戻ったときには、子どもたちも、保育士も緊張感から解放され、これまで抑えていた気持ちを発散し始めた。発達障害の傾向を示す子どもを中心に、狭い保育環境のなかで生活しているストレスから友達関係のトラブルが多発した。子どもたちのストレスを解消と体力の低下を防ごうと始めたのが、気づかせない散歩だった。道中に咲く草花や自然に興味を持たせないように、ひたすら子どもと歩く散歩は、保育士として居た堪れない思いだった。③その後、戸外活動の制限が解除された。「これで、思いっきり戸外活動ができる」と思ったが、保護者や同僚の保育士の放射能に対する意識の違いから、全員で戸外活動をすることができなかった。しかし、それを説得する情報や知識はなく、ジレンマに陥った。④転勤で他の地域の保育所に勤務することになった。その頃には、放射能の影響もなく、震災

前と同じような日常があった。しかし、震災前とは異なった子どもの姿があった。室内で転んだときには、自分で起きることができるのに、戸外で転ぶと、自分で起きることができない。その子の様子を観察すると、地面に手をつくことに対して、防衛反応が働き、拒否感を持っていたことが分かった。また、これまで楽しんでいた登り棒に、登ることができなくなってしまった子どもがいたり、泥んこ遊びに誘っても傍観する子どもがいたり、子どもの発達や成長に遅れや偏りが見られた。

こうした震災後の事象や保育士としての体験が、子どもの「子育て難さ」につながっているのではないかと推測する。

【研究2】

1 目的

いわき市内の保育者が、日常の保育の中で「震災後、発達障害の特徴を示す子どもが増えている」と訴えることに対して、いわき市と静岡市それぞれの保育園、幼稚園、認定こども園に在籍する5、6歳児対象に、日本版SRS-2 (Social Responsiveness Scale Second) 対人応答尺度幼児版を利用して比較検討を行い、実態を明らかにする。

2 方法

対象児:いわき市(保育園6か所、幼稚園1か所)と静岡市(保育園6か所、認定こども園1か所)に在籍する年長児各100名を対象とした(表1)。

表1 対象者の構成 (単位:人数)

	男子	女子	合計
いわき市	66	34	100
静岡市	60	40	100

検査バッテリー及び手続き:日本語版SRS-2対人応答尺度の実施手続きは、SRS-2マニュアル (Social Responsiveness Scale Second Edition) (2017) に従い、採点ワークシートの記入方法を説明し、

各園の年長児担当及び主任保育者に記入を依頼した。

SRS - 2とは、Constantino & Gruber(2005)により開発された対人応答性尺度 (Social Responsiveness Scale : SRS) の改訂版として 2013 年に出版された対人応答性尺度第二版 (Social Responsiveness Scale Second Edition : SRS-2) である。日本語版の SRS-2 は、2017 年に神尾らによって発表された。SRS - 2 は、幼児版、児童版、成人版に分かれており、2 歳半-成人までの行動特徴を保護者または教師が評価 (成人版は本人も評価できる) する全 65 項目の質問紙である。各項目に対して「あてはまらない」から「ほとんどいつもあてはまる」の 4 件法で回答を求める。子どもの IQ にかかわらず、自閉症的特性を定量化して把握することができ、自閉症スペクトラム障害・自閉症スペクトラム症 (Autism Spectrum Disorders: ASD) の簡便なスクリーニング尺度としての有用性や、臨床域となるケースの対人的障害を敏感にとらえ得る可能性が示されている (Kamio et al., 2013; 神尾他, 2009)。得点は粗点を T 得点に換算して用いられ、T 得点が高いほど自閉症的な特性が強いことが示されている。

分析方法：いわき市と静岡市の行動特徴を比較するために、個々の採点ワークシートの下位尺度 (社会的気づき、社会的認知、社会的コミュニケーション、社会的動機づけ、興味の限局と反復行動) の粗点を求め、SRS - 2 合計粗点を算出した。マニュアルにある幼児版尺度換算表を利用し総合 T 得点を求めた。個別の総合 T 得点の検討をマニュアルに記載されている基準で検討を行った。

3 結果

(1) SRS - 2 総合 T 得点の比較

いわき市と静岡市の年長児各 100 名の総合 T 得点の比較検討を日本版 SRS - 2 マニュアルに従って行った。結果は表 2 に示した。

表 2 SRS - 2 総合 T 得点の比較 (単位 : %)

	正常範囲内 T得点59以下	軽度の範囲 T得点60-65	中等度の範囲 T得点66-75	重度の範囲 T得点76以上
いわき市	75	2	5	18
静岡市	84	3	6	7

いわき市と静岡市の総合 T 得点の比較検討を行った結果、いわき市の年長児の行動特徴として、重度の範囲に入る子どもが多いことが確認された。そこで、重度の範囲にいる子ども一人一人について、個人内差を検討し、各市における年長児の行動特徴を明らかにすることを試みた。

(2) 重度の範囲の年長児の個人内差の比較検討

いわき市と静岡市の年長児のなかで、重度の範囲 (総合 T 得点 76 以上) にいる子どもを対象に、SRS - 2 の下位尺度の 5 領域 (社会的気づき、社会的認知、社会的コミュニケーション、社会的動機づけ、興味の限局と反復行動) について、個人内差について比較検討を行った。重度の範囲となる T 得点 76 をカットオフに設定し、その結果を表 4 に整理した。

なお、SRS - 2 の下位尺度の 5 領域については、次のように定義がされている (表 3)。

表 3 下位尺度 5 領域の定義

1	社会的気づき	社会的な手掛かりを拾い上げる能力
2	社会的認知	社会的な手掛かりを解釈する能力
3	社会的コミュニケーション	表出的な社会的コミュニケーションを含む
4	社会的動機づけ	社会的、対人行動に参加するのに、どの程度一般的に動機づけられているか
5	興味の限局と反復行動	常同的な行動あるいは、自閉症のきわめて限局された興味の特徴を含む

個人内差を比較検討した結果、次の 5 つのタイプに分類された。その内訳は、①A タイプ : 全ての領域の T 得点が 76 以上を示す群 (いわき市、静岡市各 1 名)、②B タイプ : 「社会的動機づけ」以外の領域の T 得点が 76 以上示す群 (いわき市 1 名、静岡市 2 名)、③C タイプ : 「社会的気づき」「社会的動機づけ」以外の領域の T 得点が 76 以上示す群 (いわき市、静岡市各 2 名)、④D タイプ : 「社会的コミュニケーション」「興味

表4 重度の範囲の年長児の個人内差の比較

注：グラフ中の数値はT得点を示す

タイプ分け	いわき市	静岡市
<p>Aタイプ</p> <p>全ての療域のT得点が76以上を示しているタイプ</p>	<p>D1</p>	<p>B</p>
<p>Bタイプ</p> <p>「社会的動機付け」以外の療育のT得点が、76以上を示しているタイプ</p>	<p>R1</p>	<p>D</p> <p>E</p>
<p>Cタイプ</p> <p>「社会的気付き」「社会的動機付け」以外の療育のT得点が76以上示しているタイプ</p>	<p>E1</p> <p>G1</p>	<p>A</p> <p>E</p>
<p>Dタイプ</p> <p>「社会的コミュニケーション」「興味の限局と反復行動」の領域のT得点が76以上示しているタイプ</p>	<p>J1</p>	<p>G</p>

<p>Dタイプ</p> <p>「社会的コミュニケーション」「興味に限局と反復行動」の領域のT得点が76以上示しているタイプ</p>	<p>K1</p> <table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Score</th></tr> <tr><td>社会</td><td>75</td></tr> <tr><td>社会</td><td>75</td></tr> <tr><td>社会</td><td>75</td></tr> <tr><td>社会</td><td>75</td></tr> <tr><td>興味</td><td>85</td></tr> </table>	Category	Score	社会	75	社会	75	社会	75	社会	75	興味	85																										
Category	Score																																						
社会	75																																						
社会	75																																						
社会	75																																						
社会	75																																						
興味	85																																						
<p>非定型</p> <p>T得点が76以上の領域がバラバラに出現しているタイプ</p>	<p>O1</p> <table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Score</th></tr> <tr><td>社会的</td><td>75</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>75</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>75</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>85</td></tr> <tr><td>興味</td><td>85</td></tr> </table>	Category	Score	社会的	75	社会的	75	社会的	75	社会的	85	興味	85	<p>B1</p> <table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Score</th></tr> <tr><td>社会的</td><td>75</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>75</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>85</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>95</td></tr> <tr><td>興味</td><td>105</td></tr> </table>	Category	Score	社会的	75	社会的	75	社会的	85	社会的	95	興味	105	<p>C</p> <table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Score</th></tr> <tr><td>社会</td><td>75</td></tr> <tr><td>社会</td><td>75</td></tr> <tr><td>社会</td><td>85</td></tr> <tr><td>社会</td><td>85</td></tr> <tr><td>興味</td><td>85</td></tr> </table>	Category	Score	社会	75	社会	75	社会	85	社会	85	興味	85
Category	Score																																						
社会的	75																																						
社会的	75																																						
社会的	75																																						
社会的	85																																						
興味	85																																						
Category	Score																																						
社会的	75																																						
社会的	75																																						
社会的	85																																						
社会的	95																																						
興味	105																																						
Category	Score																																						
社会	75																																						
社会	75																																						
社会	85																																						
社会	85																																						
興味	85																																						
	<p>P1</p> <table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Score</th></tr> <tr><td>社会的</td><td>85</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>75</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>85</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>85</td></tr> <tr><td>興味</td><td>95</td></tr> </table>	Category	Score	社会的	85	社会的	75	社会的	85	社会的	85	興味	95	<p>C1</p> <table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Score</th></tr> <tr><td>社会的</td><td>75</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>85</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>95</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>85</td></tr> <tr><td>興味</td><td>85</td></tr> </table>	Category	Score	社会的	75	社会的	85	社会的	95	社会的	85	興味	85													
Category	Score																																						
社会的	85																																						
社会的	75																																						
社会的	85																																						
社会的	85																																						
興味	95																																						
Category	Score																																						
社会的	75																																						
社会的	85																																						
社会的	95																																						
社会的	85																																						
興味	85																																						
	<p>Q1</p> <table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Score</th></tr> <tr><td>社会的</td><td>95</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>95</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>95</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>85</td></tr> <tr><td>興味</td><td>75</td></tr> </table>	Category	Score	社会的	95	社会的	95	社会的	95	社会的	85	興味	75	<p>L1</p> <table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Score</th></tr> <tr><td>社会的</td><td>85</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>85</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>75</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>75</td></tr> <tr><td>興味</td><td>95</td></tr> </table>	Category	Score	社会的	85	社会的	85	社会的	75	社会的	75	興味	95													
Category	Score																																						
社会的	95																																						
社会的	95																																						
社会的	95																																						
社会的	85																																						
興味	75																																						
Category	Score																																						
社会的	85																																						
社会的	85																																						
社会的	75																																						
社会的	75																																						
興味	95																																						
	<p>F1</p> <table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Score</th></tr> <tr><td>社会的</td><td>75</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>75</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>75</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>75</td></tr> <tr><td>興味</td><td>105</td></tr> </table>	Category	Score	社会的	75	社会的	75	社会的	75	社会的	75	興味	105	<p>A1</p> <table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Score</th></tr> <tr><td>社会的</td><td>75</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>75</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>75</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>75</td></tr> <tr><td>興味</td><td>85</td></tr> </table>	Category	Score	社会的	75	社会的	75	社会的	75	社会的	75	興味	85													
Category	Score																																						
社会的	75																																						
社会的	75																																						
社会的	75																																						
社会的	75																																						
興味	105																																						
Category	Score																																						
社会的	75																																						
社会的	75																																						
社会的	75																																						
社会的	75																																						
興味	85																																						
	<p>H1</p> <table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Score</th></tr> <tr><td>社会的</td><td>75</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>75</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>85</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>85</td></tr> <tr><td>興味</td><td>75</td></tr> </table>	Category	Score	社会的	75	社会的	75	社会的	85	社会的	85	興味	75	<p>M1</p> <table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Score</th></tr> <tr><td>社会的</td><td>75</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>85</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>75</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>75</td></tr> <tr><td>興味</td><td>75</td></tr> </table>	Category	Score	社会的	75	社会的	85	社会的	75	社会的	75	興味	75													
Category	Score																																						
社会的	75																																						
社会的	75																																						
社会的	85																																						
社会的	85																																						
興味	75																																						
Category	Score																																						
社会的	75																																						
社会的	85																																						
社会的	75																																						
社会的	75																																						
興味	75																																						
	<p>N1</p> <table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Score</th></tr> <tr><td>社会的</td><td>75</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>75</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>75</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>75</td></tr> <tr><td>興味</td><td>75</td></tr> </table>	Category	Score	社会的	75	社会的	75	社会的	75	社会的	75	興味	75	<p>I1</p> <table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Score</th></tr> <tr><td>社会的</td><td>75</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>75</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>85</td></tr> <tr><td>社会的</td><td>75</td></tr> <tr><td>興味</td><td>75</td></tr> </table>	Category	Score	社会的	75	社会的	75	社会的	85	社会的	75	興味	75													
Category	Score																																						
社会的	75																																						
社会的	75																																						
社会的	75																																						
社会的	75																																						
興味	75																																						
Category	Score																																						
社会的	75																																						
社会的	75																																						
社会的	85																																						
社会的	75																																						
興味	75																																						

※アルファベットは、児童名を示す。
 (アルファベットのみ：静岡市の幼児、アルファベット+数字1：いわき市の幼児)

の限局と反復行動」の領域のT得点が76以上示す群（いわき市2名、静岡市1名）、⑤非定型：T得点が76以上示す領域がばらばらに出現している群（いわき市12名、静岡市1名）であった。結果から見えた各市の特徴は次の通りである。

1) いわき市の特徴

・SRS - 2 対人応答尺度実施マニュアルで分析をして重度の範囲に入った対象となる子ども18名は、各領域におけるT得点が76を超えているが、領域や子どもによってT得点のばらつきがある。

・18名の子どもの特徴は、大きく分けて1) 全ての領域におけるT得点が76を超えている子ども(Aタイプ)、2) 「社会的動機づけ」以外のT得点が76以上の子ども(Bタイプ)、3) 「社会的気付き」と「社会的動機づけ」以外のT得点が76以上の子ども(Cタイプ)、4) 「社会的コミュニケーション」と「興味の限局と反復行動」のT得点が76以上を示す子ども(Dタイプ)の4つの特徴と、T得点が76以上の領域ばらばらに出現している群(非定型)の5つのタイプが示された。

2) 静岡市の特徴

・SRS - 2 対人応答尺度実施マニュアルで分析をして重度の範囲に入った対象となる子ども7名は各領域におけるT得点が80以上を超えているものが多くみられた。

・7名の子どもの特徴は、大きく分けて1) 全ての領域におけるT得点が90を超えている子ども(Aタイプ)、2) 「社会的動機づけ」以外のT得点が76以上の子ども(Bタイプ)、3) 「社会的気付き」と「社会的動機づけ」以外のT得点が76以上の子ども(Cタイプ)、4) 「社会的コミュニケーション」と「興味の限局と反復行動」のT得点が76以上を示す子ども(Dタイプ)の4つの特徴と非定型の群の子どもは1名おり、5つのタイプが示された。

4 結果

いわき市と静岡市の年長児なかで、重度の範囲(総合T得点76以上)の子どもを対象にSRS - 2の下位尺度の5領域(社会的気付き、社会的認知、社会的コミュニケーション、社会的動機づけ、興味の限局と反復行動)について、個人内差の比較検討を行った結果、次のことが明らかになった。

静岡市の年長児は、総合T得点76以上を示す子どもは7名であった。しかし、その7名の各領域のT得点は、80以上を超えているものが多かった。このことは、日常の対人関係において支障をきたし、対人的相互行動の困難さにつながっていると考える。このことは、自閉症スペクトラム障害、あるいは、重度の特定不能の広汎性発達障害とも関連していると推測される。

一方、いわき市の年長児は、総合T得点76以上を示す子どもは18名いるが、個人内差を検討した結果、各領域のT得点にばらつきが多く見られた。このことは、本来持っている発達障害の資質以外の要因が影響して、発達障害の行動特徴を示していることが推測される。

【総合考察】

保育者の語りから、保育者が感じている「子どもの育て難さ」は、震災によって、保育環境の崩壊などから、保育者自身の「保育観に喪失」があったことが明らかとなった。その「保育観の喪失」から、希望を見出したのは、東日本大震災によって制限された環境の中で、友達の実似をしたり、新たな遊びを発見したりする子どもたちの成長の姿であった。そうした子どもたちの保育を、震災後の新たな環境の中で試行錯誤しながら行う日々の営みの中で、「保育観」の再構築が行われてきていると考える。現在の「子どもの育て難さ」は、保育者自身の「保育観」の広がりを示唆する重要な事柄が含まれていると推測できる。

日本語版 SRS-2 対人応答尺度を用いた調査からは、「子どもの育て難さ」の背景要因としていわき市は「発達障害」の行動特徴を示している子どもが多くいることは確認された。しかし、これらの行動を示す要因として、重度の範囲にいる子どもたちの個人内差を検討した結果、本来持っている発達障害の資質よりも、環境的な要因が影響しているのではないかと推測される。

【謝辞】

最後に、本調査にご協力いただきました保育士、保育園、幼稚園、認定こども園の保育者の皆様に厚くお礼申し上げますとともに、研究へのご支援を賜りました明治安田こころの健康財団に心より感謝申し上げます。

【引用文献】

本間博彰・小野寺滋実・高田美和子・吉田弘和・高橋太志. 東日本大震災による乳幼児の心的外傷及び関連障害の実態について-発見されにくいトラウマを抱えた幼い子どもたちへの児童精神医学的介入と実践的なケアの構築の検討-研究助成論文集 (2014) 公益財団 明治安田こころの健康財団

John N. Constantino, MD Christian P. Gruber, PhD (2017) Social Responsiveness Scale Second Edition SRS-2 日本版 SRS - 2 対人応答性尺度マニュアル 神尾陽子監訳・編著. 日本文化科学社 (2017)

香曾我部 琢 保育者の転機の語りにおける自己形成プロセス-展望の形成とその共有化に着目して- 「保育学研究」第51 巻第1号 (2013)

ローレンス・M・ブラマー 人生のターニングポイント-転機をいかに乗り越えるか. 楡木満生, 森田明子訳. ブレーン出版 (1994)

徳田克己・西館有沙・安心院朗子・西村実穂. 福島第一原発事故による放射能汚染が乳幼児の保育に与えた影響 - 茨城県の保育所を中心として- 研究助成論文集 (2012) 公益財団 明治安田こころの健康財団

安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ 編 TEA 実践編-複線径路等至性アプローチを活用する- 新曜社 (2015)